

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2370200475		
法人名	有限会社 レジデンシャルケア		
事業所名	レジデンシャルケア 徳川町		
所在地	名古屋市東区徳川町 2714		
自己評価作成日		評価結果市町村受理日	平成23年3月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyou-aichi.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉総合研究所株式会社		
所在地	愛知県名古屋市千種区内山一丁目11番16号		
訪問調査日	平成23年1月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

オーナーが育った場所にホームは建ち、地域との交流を大切にしている。地下駐車場があり、居間や居室、廊下、浴室など広々とゆったりと寛ぐ事ができる。家庭菜園では、季節の野菜等を植えて収穫の楽しみを支援している。畳下には災害用品や季節用品を保管している。職員は「目配り・気配り・心配り」をモットーに家庭的な雰囲気の中で関わりを大切にその人らしい生活ができるよう人員配置に余裕を持たせ心に寄り添うケアを目指している。ご利用者様と関わっている職員が話し合いを行い、介護計画を立案し、計画作成担当者が作成している。衛生管理の為に洗面所には殺菌効果のあるドクターエアアタールを設置し、水は全館パイウォーターを使用している。アロマランプを焚き、空気の除菌、清浄に努め、リラククス効果を高めている。どなたでも気楽に訪問できる環境を整えている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は「目配り 気配り 心配り 心に寄り添うケアを」の理念のもと、「おもてなしの気持ち」を大切に、利用者一人ひとりに合わせた支援を心がけている。地域の活動への参加や散歩、買い物、床屋や喫茶店等の利用を通じて地域との交流に努めている。利用者や家族からの意見や要望を聴き、職員が話し合い検討し運営に活かしている。婦人雑誌が読みたい利用者の希望をかなえるため、地域の協力で雑誌を設置することができた。また、運営推進会議でノロウィルス対策用に使い捨てクロスの使用が提案され、地域の人からクロス用の綿製品を常時提供してもらっている。利用者ごとに担当職員制をとっているが、カンファレンスノート(情報共有ノート)を活かし職員みんなで意見を出し合い介護計画書の作成やモニタリングをしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝職員が理念を唱和することにより、理念を共有し、それに基づき日々の計画を立て、実践をしている。また、詰所に掲示していることから再確認して意識付けられている。	会議やミーティングでも理念「目配り 気配り 心配り 心に寄り添うケアを」の確認をしている。職員は「おもてなしの気持ち」を大切に、日々、理念の実践を心がけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の活動に参加をしており、廃品回収や行事、買い物や散歩を通して地域とのつながりを持って暮らせるように努めている。近隣のスーパーや公園へ外出をして地域の方々との交流を図れるように努めている。	地域の床屋や喫茶店等の利用をしている。誕生日には喫茶店での食事会をおこなっている。食事内容にホームの希望を取り入れてくれ、提案もしてくれる。地域に受け入れられ、日常生活の中で自然に地域交流が出来ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の方の理解や支援の方法を運営推進会議等でも地域包括支援センターの方と協力して、地域の方々に参加していただくことにより、勉強会や交流を図っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議でご家族の参加により要望や疑問点を話し合える場を提供すると共に、話し合ったことを最大限に活かし、職員一同も会議内容を周知徹底し、サービスの向上に活かしている。	偶数月の第1木曜に開催し、民生委員やいきいき(地域包括)支援センター職員等の出席がある。ノロウィルス対策として使い捨てクロスが提案が出された。委員の働きかけにより、地域の人からの綿製品の提供があり、使い捨てクロスとして利用している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者との連携を大切に、地域包括支援センターや民生委員の方々とも連携をとっている。互いに協力関係を築き、助言や情報を提供していただいている。消防や保健所等からの助言も頂いている。	ホームの状況報告のほか、相談事があれば連絡を取り助言をもらっている。協力関係を築くよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会や職員会議、毎日のカンファレンスで常に話し合える環境を作り互いに協力をして、身体拘束に対する知識を持つと共にしないケアの実践をしている。玄関は、外部からの不審者や交通量の多い地域のため家族の了解の下施錠をしている。	マニュアルの作成をし、職員は「身体拘束をしないケア」について理解し、日々のケアに取り組んでいる。訪問時に、接し方や言葉のかけ方に気になる点はなかった。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者が安全に暮らせるように日々の観察を行い、トラブルを未然に防ぐ努力を重ねている。虐待に関する勉強会を設け、職員同士で話し合い、学ぶ機会を持っている。また、共通の知識を持てるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度や日常生活自立支援事業等について学ぶ機会を設け理解をしている。また、必要とされるご利用者へ活用できるように支援をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご利用者やご家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い、誤解が生じないように気を配り、納得が得られるように話しが出来る環境を整えて、理解していただいた上で契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や運営推進会議等でご家族との意見交換を行い、要望等に答えられるように努めている。また、それらを運営に反映できるように十分に話し合っている。	利用者や家族と職員とはコミュニケーションが取れている。家族の意見から立て替え金の支払いを口座引き落としに変更し、利用者の婦人雑誌を見たいとの希望には地域の協力を得て婦人雑誌を譲ってもらい設置した。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議やカンファレンス等で職員の要望や提案を聞く機会を設けており、運営に反映できる環境を整えて、随時対応を行っている。	職員の意見・提案や要望はミーティングや日々の申し送り等でも出される。フロアリーダーは出されたものを会議の議題としてあげ、職員で検討している。職員は起案書を提出することもある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与規定や表彰の制度が明確になっており、皆勤賞等努力や実績、勤務状況によって表彰がある。休暇制度も整えている。向上心を持って働けるように就業環境を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外の研修を受ける機会を確保し、勉強会等でも細かい指導があり、質問や疑問点等も再確認ができるような環境を整えている。また、職員会議でも実践で介護技術のトレーニングを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームとの交流を持ち、意見交換を行っている。見学や実習等も受け入れている。日々サービスの質の向上ができるように勉強会や研修報告を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用者の不安や困っていることを聞き入れ、安心を確保できるように信頼関係を築く努力を行い、職員間でのケアの方法の統一を図る為にカンファレンスで話し合わせ、ご利用者との良い関係作りをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が困っていること不安なことに耳を傾け、疑問点等への対応も十分に行っている。ご利用者が安全で安心して生活が送れるように話し合う場を設けて、信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話を聞き入れて、ご利用者とご家族が必要と思われるサービスの提供と実際の提供方法を納得の得られる説明を心がけている。また、他のサービス利用も含めた対応にも努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人を尊重し、役割を持っていただくことにより共同生活を送る上でご利用者同士、皆で協力して日々生活していただけるように努め、良好な関係作りを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と十分に話し合いを行い、面会時には積極的に意見交換を行い、絆を大切にしている。また、ご家族と職員が共に協力し合いご利用者本人を支えあい、支援をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、知人、親戚等がいつでも面会に来られる環境を整えている。また、冠婚葬祭へも参加できる様に援助をしている。ご本人にとってなじみのある場所などを大切にしながら日々意識をして会話もしている。	地域にもともと住んでいた利用者が多いため、いつでも知人や友人が訪ねてきてくれる。葬式・法事・孫の結婚式に参加する利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家事、食事、レクリエーションを通してご利用者同士の良好な関係を築けるように努め、一人ひとりが孤立しないようにご利用者同士関わり合い、互いにコミュニケーションがとれるように支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了をしてからもご家族より連絡を頂いたり、訪問をしてくださる方もいらっしゃる。また、これまでの関係性を大切にしており、相談等の対応にも応じ、支援をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努め、アセスメントやモニタリングを活用して日々のカンファレンスや職員会議、情報共有ノートを通じて話し合いを行い、より良いケアに繋げている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者の生活歴、生活環境等をここでの生活を楽しく笑顔のある生活が送れるようにご家族やご利用者より常にお聞きしている。また、一人ひとりに合った生活が送れるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの過ごし方や心身の状態を把握してご本人のできる事、やりたいことをコミュニケーションをとる上で職員は理解できるように努めている。また、人員配置も多く日々の変化にも細かく対応を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族やご本人の意見を取り入れ、より良い環境で生活ができるように話し合いを行っている。深々の状態に沿ってアセスメントシートを活用して、それに基づき介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々、全職員で統一した介護が提供できるように、個別の記録に記入を行い職員間で情報を共有している。毎日のカンファレンスでも話し合いを行い、介護計画の見直しに反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりに合ったサービスの提供ができるように個々を尊重し、ご家族と相談をしながらご利用者にとって有効なサービスが受けられるように社会資源を活用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご利用者の暮らしに多くの楽しみを提供できるように、地域のボランティアや外出援助の方との外出も取り入れている。また、消防署参加の防災訓練等を行ない、地域との繋がりを大切にしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人とご家族の希望を確認して、かかりつけ医との協力関係を築き、協力医院との連携を密にして、月2回の内科医の往診と24時間の対応をしている。歯科医による診察も受けられるように支援をしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週1回協力医院の看護師の訪問があり、健康状態の把握をしていただき、随時24時間連絡、相談を行っており、適切な指示をいただき、往診や受診が受けられるように支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者が入院の際には安心して治療が受けられるように状況報告及び情報の共有ができるように随時入院先との連絡や訪問を行っている。担当の医師、看護師、相談員との連携を密にとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	協力医院との連携を行い、ご家族と事業所とで重度化、終末期の方針の話し合いを行う機会を設けている。また、職員間でも常に日々のカンファレンスや職員会議で情報の共有に努めて日々の対応方法の改善等に繋げている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に備えてマニュアルに沿って行っている。また、日ごろからご利用者のバイタル基準値の把握を行い、観察力を身につけて、日々のケアへ活かせるように勉強会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ご利用者が安全に避難ができるように全職員の意識確認を研修や会議にて行っている。また、地域の協力が得られるように自治会や消防団の方々との関係を大切にして、消防署より指導を頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊敬の念を持ち、一人ひとりの育ってきた環境の違いを把握して、誇りを持って過ごしていただけるように言葉かけを行っている。個々の人格を大切に、穏やかな対応を心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に傾聴することを実践している。特に個別対応時に本人の希望や要望を引き出し、支援をしている。また、本人の意思を尊重して自己決定をしていただける様に話しやすい環境を整えている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人のその日の状況に応じて計画以外にも外出や作業、家事等の希望に添えるように支援している。また、一人ひとりの介護計画に沿って充実した1日が過ごしていただけるように支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人ひとりの好みに合わせて衣類等身だしなみの援助を行い、お化粧品や髭剃り、整髪等ができるように支援をしている。訪問美容の利用や希望時に利用店へ行けるように支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者の好みの把握に努め、季節の食材をできるだけ多く使用して献立を考えている。また、ご利用者と共にメニューを決められる機会を持ち、食事の準備や下ごしらえから片付けまで共に協力して行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量や水分量のチェックを行い、全職員が一人ひとりの状態の把握に努め、偏りのないバランスの摂れた食事を提供している。また、保健所の管理栄養士にもご指導を頂いたことがある。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアに努め、自力で行える方に対しても随時チェックをして援助の必要時には付き添い、支援をしている。協力医院より随時ブラッシング指導や義歯の調整を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握できるように個々にチェックを行っている。できる限りトイレでの排泄の支援を行い、オムツの使用を減らせるよう努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を把握し、個々に応じた対策を取っている。また、食物繊維の多い食べ物の摂取と十分に水分摂取ができるように薦めている。体操を行い、自力で行えない方には個別での対応をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご利用者の希望や体調や習慣を把握して、入浴時間や回数を検討をしている。気分良く入浴をしていただけるように努め、困難なケースは職員間での日々のカンファレンス等でも話し合われている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者の生活リズムに合わせて休息できるように支援をしている。また、夜間帯に安心して安眠できるように就寝前に穏やかに過ごせる環境と日中に楽しみのある生活を提供している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の内服の説明書を確認できるように常に新しいものをファイルして毎日の内服チェックを行い、確認をしている。また、薬の扱いに対しても目的や副作用等の理解にも努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の人格を尊重して、できる限り個々に合った役割を持っていただけるように、居場所の提供を心がけている。また、気分転換ができるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣のスーパーへ買い物や公園等散歩へ行き、喫茶店等へ外出をしている。また、墓参りや冠婚葬祭への外出ができるように支援をしており、家族や友人、地域の人々との交流を大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人を尊重してお金の所持をしている。しかし、多くの方が所持をしておらず、立て替えることで安心されており、その様に対応をしている。また、欲しい物が購入できるように支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りができるように支援をしている。電話の取次ぎや本人の要望される時にできる限りの対応をしている。ご家族や友人との繋がりを大切にしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用のリビングで、季節感を大切に飾り付けをしている。お花などにも気を配り車椅子の方も愛でることができるようにウッドデッキに配置している。音楽なども落ち着いて過ごせるように工夫をして、温度管理も季節ごとに暑すぎず、寒すぎないように努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりの居場所かもてるように工夫をしている。ご利用者同士で過ごせるようにソファや畳スペースも用意をしている。常時好みに過ごしていただけるよう、居室へも自由に出入りできるようにし、ご本人を尊重している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の使い慣れた物や好みのものを置いていただいたり、ご本人が安心して生活が出来るように、居心地の良い空間作りに努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室には表札が掲げてあり、安全で安心した生活が送れるように廊下や各居室には手すりを設置している。ご本人が自立して混乱を最小限にして過ごせるように工夫をしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2370200475		
法人名	有限会社 レジデンシャルケア		
事業所名	レジデンシャルケア 徳川町		
所在地	名古屋市東区徳川町 2714		
自己評価作成日		評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉総合研究所株式会社		
所在地	愛知県名古屋千種区内山一丁目11番16号		
訪問調査日	平成23年1月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

オーナーが育った場所にホームは建ち、地域との交流を大切にしている。地下駐車場があり、居間や居室、廊下、浴室など広々とゆったりと寛ぐ事ができる。家庭菜園では、季節の野菜等を植えて収穫の楽しみを支援している。畳下には災害用品や季節用品を保管している。職員は「目配り・気配り・心配り」をモットーに家庭的な雰囲気の中で関わりを大切にその人らしい生活ができるよう人員配置に余裕を持たせ心に寄り添うケアを目指している。ご利用者様と関わっている職員が話し合いを行い、介護計画を立案し、計画作成担当者が作成している。衛生管理の為に洗面所には殺菌効果のあるドクターエアアタールを設置し、水は全館パイウォーターを使用している。アロマランプを焚き、空気の除菌、清浄に努め、リラククス効果を高めている。どなたでも気楽に訪問できる環境を整えている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼で、毎日唱和しており、全職員が共有できるように日々取り組んでいる。また、常に意識付けられるように詰所にも理念4項目掲げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月に2～3回の地域のボランティアの方が訪問してくださっている。地域で行っている祭や催し物にも参加している。近所のスーパーへ買い物に出かけたり、喫茶店へも出かけ交流できるようにしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や地域包括支援センターでの講演に地域の方や家族の方が参加していただき、理解していただくように努めている。見学に来られる方にも丁寧に説明できる体制を整えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族、地域の方や有識者の参加により日ごろの生活や活動内容を報告をしている。また、疑問点や相談のある場合はその都度話し合える場を設けている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者や取締役によって名古屋市や東区の担当者と連携を取っている。また、地域包括支援センターの職員とも連携をとり、運営推進会議への参加をいただいている。また、依頼により講演を引き受けている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを作成して職員全体で「身体拘束をしないケア」を理解して実際に取り組んでいる。玄関には環境により交通量の多い地域の為と、不審者の侵入防止のために施錠をしている。家族へも理解をいただいている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての勉強会や職員が研修に参加をしている。ご利用者に対して十分に敬意を払い接している。毎日カンファレンスを開催し難しい対応方法に対しての話し合いもなされている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度についての勉強会があり、職員やご家族、地域の方と話し合いをする場を設けている。また、必要とされている方に制度を利用できるように支援をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際文章により管理者よりご利用者やご家族と十分に話し合いを行い、不安な点や疑問点に丁寧に対応をしている。また、説明を十分に行い納得が得られるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議を2ヶ月に1回開催し、ご利用者やご家族の意見・要望がある際には相談報告内容として対応をしている。また、外部の方にも知らせている。職員へも周知できるように文章による説明等をしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見や要望等は、常に取締役や管理者が聞き入れる体制を整えて、運営に反映できるようにしている。1ヶ月に1度職員会議も開催されて、個々の意見が反映できる環境を整えている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	経験を積み重ねてステップアップできるように給与形態を整えている。また、皆勤賞や給与の昇給、休暇をとれる様に努めており、向上心を持って働きやすい環境を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が研修に行く機会を設けており、研修を受けた職員による勉強会を開催をしている。また、職員会議での勉強会も開催し、学ぶ機会を確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者や職員が同業者との相談や見学を通して交流できる機会を作っている。また、相互訪問もしていただき職員間でサービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	常にご利用者が不安のない生活をしていただけるように努めており、個々の要望に耳を傾けて信頼関係作りに励み、コミュニケーションを密に取り関係の向上に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族と信頼関係を築けるように、困っている事不安や心配な事、要望等に常に耳を傾けて話し合えるような環境作りをしている。小さな出来事でも話し合える関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族の意見や要望も聞き入れてご本人に合ったサービスが提供できるように、日々のカンファレンスや職員会議等でも話し合いがなされている。また、個々に合ったケアプランの作成をして、生活の支援を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お互いに共同して生活していくことを意識してご利用者の意見を把握している。また、個々に合った家事や作業等ができるように職員やご家族が協力をして働きかけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人とご家族の絆を大切にして、常にご利用者の尊厳を大切にしている。ご利用者が笑顔で過ごせる環境作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出や日々の会話の中で場所や名前を思い出せるように支援をしている。また、過去の話や趣味、場所、家族のことを楽しみながら相談をして友人等の関係が途切れないように努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々に合った生活の支援に努めて、リハビリ体操やカラオケやトランプ、おやつ作り、共同作業等様々な取り組みをしてご利用者同士関わり合い互いを認め合い、共に支えあえる生活をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了してもご家族より連絡や訪問があり、その繋がりを大切にしている。また、要望に応じて相談にのり、援助をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの尊厳を大切にして親身になり意向等を職員が把握し、個々に合った対応を心がけている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個々に合った過ごし方やその方のできる事を知り、日々楽しく安心して生活を送ることができるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身の状況を把握できるように記録に書き留めて日々カンファレンスをしている。一人ひとりに合った生活ができるようにケアプランの見直しを行い、支援ができるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	より良く暮らす為に心身の状態に沿ってアセスメントシートの作成をしてミーティングで話し合っている。また、ご家族や医療関係者とも連携をとり介護計画を作成をしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	常に職員間で連携をとり、ご利用者の変化や様子を把握して、記録をしている。毎日カンファレンスを行い、職員間で情報を共有できるように管理者へも報告をしている。また、介護計画の見直しにも活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者の思いを大切にして、ご家族の希望や状況を把握して、柔軟に可能な限りニーズに対応できるように努めている。必要とされているサービスの提供にも取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご利用者それぞれの意思を尊重して、楽しみの提供を行っている。また、月に2回の音楽療法のボランティアや落語・手品などのボランティアの方がいらっしゃり、より多くの楽しみの提供を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月2回の協力医院より診察を受けられる体制を整えている。ご本人やご家族の希望されるかかりつけ医も大切にして、適切なアドバイスをいただけるような関係作りに努めている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回看護師の訪問があり、ご利用者の健康状態を詳しく伝え、アドバイスを頂いている。また、適切な医療を受けられるように医師とも情報の共有が出来るように働きかけている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者の入院時は、医療関係者に情報の伝達を行い、必要時には提供書を作成した上で説明を行っている。また、こまめに入院先の関係者との連携も心掛けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族との話し合いを重ね、重度化や終末期の際事業所での出来ることを十分に説明をしている。また、協力医院との協働にも努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の場合、管理者や職員が医療関係者への連携をとっている。また連絡方法を理解している。勉強会を適宜行っており、個々に適切な対応が出来るように随時その方に合った対応方法を決めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害の安全対策について避難訓練などを行っている。消火方法、連絡方法の理解もしている。地域の消防団へも協力を仰いでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重して誇りを大切にしている。居場所の提供を行い、個々の性格にも考慮して対応をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	できる限り本人の思いを表せられるように努めて、安全に過ごすことが出来るように環境を整え個別での対応も行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にしてご利用者の訴えを聞き入れて、可能な限り支援を行い過ごしていただいております。レクリエーションなども個々の好みに合うように、提供をしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類や身の回りの品等をご利用者やご家族の希望に合わせていただき、常に身だしなみには気を配っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	家庭的な雰囲気大切に、食事の準備や食器の方付けを共に行い、役割や楽しさを持っていただけるように配慮をしている。栄養も考慮して提供をしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事量や水分量の記録を行い、十分に確保できるように支援をしている。栄養やカロリー等も気を配り食事の提供をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口内の清潔が保てるように、ケアを行っている。協力医院の歯科医にもブラッシングの指導を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者の排泄パターンを把握できるように記録をとり、自立した排泄に向けて取り組んでいる。また、個々の体調に合わせて無理なく援助をしていただける様に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を十分に摂取できるように記録をとり、食事でも食物繊維の多いものを提供できるように工夫をしている。毎日体操を行い、運動を通して予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の日程を決めて行っているが、必要時には随時入浴の介助をしている。その方が着たいものなどの意識を尊重している。話をしながらリラックスできる環境を整えて、入浴していただいている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者が安心して眠れるように環境作りに努め、体調の変化にも対応できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の支援を行うときには職員二人で確認を行ない、飲み終わるまで確認している。用法や用量も協力医院や薬局と連携をとり、症状の変化へも対応できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者の好みに合わせて日々行えるように支援をしている。家事や散歩、パズルや編み物、本読みや新聞、塗り絵等、個々の希望や気分転換できるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の計画を立てて、ご本人の希望にできる限り添えるように心掛けて天候、環境の把握をしながら、外出をしていただいている。散歩や買物等も一緒に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の大切さを尊重し、希望により安心感の為にも所持していただいている。多くの方は立て替えさせていただき、買い物の際には一緒に外出して選んでいただいたり会話をして買い物をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者の希望に添えるように電話が出来るように援助をしている。また、ご家族の電話も取り次いでいる。手紙等のやりとりもしていただいております、交流を大切にしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	過ごしやすい環境づくりのため、冷暖房の調節等をしている。換気もこまめに行い季節に合わせて飾り等を工夫して利用者の居心地よく暮らせるよう努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々のご利用者それぞれのプライベート空間が守られるようにしている。リビングも安心できる様に思い思いの場所で過ごしていただけるような環境作りをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地の良い場所になる様に思い出の物を持ってきていただけるようにしている。また、ご家族と相談をして安心して生活ができるような環境作りに努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりはフロア全体に設置しており、レイアウトにも気を配り、安全で一人ひとりの自立した生活が送れるように努めて、各居室や共用部にも表札を掲げている。		

外部評価軽減要件確認票

事業所番号	2370200475
事業所名	レジデンシャルケア 徳川町

【重点項目への取組状況】

重点項目①	事業所と地域とのつきあい (外部評価項目：2)	評価
	オーナーが育った場所に建つホームで地域との繋がりがあり、地域との交流を大切にしている。自治会に加入し、行事参加を通じての地域との交流がある。日常生活においても買い物や散歩に出掛け、床屋や喫茶店等を利用し、地域の人との交流をしている。地域のボランティアの訪問が月に2~3回ある。	○
重点項目②	運営推進会議を活かした取組み (外部評価項目：3)	評価
	偶数月の第一木曜に定期開催し、利用者・家族・自治会長・民生委員・いきいき(地域包括)支援センター職員・協力医等が参加している。委員から、ノロウイルス対策として使い捨てクロス提案があり、委員の働きかけにより、地域の人からの綿製品の提供を受け利用している。	○
重点項目③	市町村との連携 (外部評価項目：4)	評価
	市・区役所の職員と連携を取り、協力関係を築くよう努めている。ホームからは状況報告や相談をし、役所からは情報提供や助言を得ている。いきいき(地域包括)支援センターから依頼を受け、施設長が認知症家族教室の講師を務めた。	○
重点項目④	運営に関する利用者、家族等意見の反映 (外部評価項目：6)	評価
	面会時や運営推進会議等で家族との意見交換を行っている。利用者や家族とは日頃からコミュニケーションが取れている。家族の意見から立て替え金の支払いを講口座き落としに変更し、利用者の婦人雑誌を見たいとの希望には地域の協力を得て婦人雑誌を設置した。	○
重点項目⑤	その他軽減措置要件	評価
	○「自己評価及び外部評価」及び「目標達成計画」を市町村に提出している。	○
	○運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されている。	○
	○運営推進会議に市町村職員等が必ず出席している。	○
総合評価		○

【過去の軽減要件確認状況】

実施年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
総合評価	○	○				

1. 外部評価軽減要件

- ① 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」及び「2 目標達成計画」を市町村に提出していること。
- ② 運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されていること。
- ③ 運営推進会議に、事業所の存する市町村職員又は地域包括支援センターの職員が必ず出席していること。
- ④ 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」のうち、外部評価項目の2、3、4、6の実践状況(外部評価)が適切であること。

2. 外部評価軽減要件④における県の考え方について

外部評価項目2、3、4については1つ以上、外部評価項目6については2つ以上の取り組みがなされ、その事実が確認(記録、写真等)できること。

外部評価項目	確認事項
	(例示)
2. 事業所と地域のつきあい	① 自治会、老人クラブ、婦人会、子ども会、保育園、幼稚園、小学校、消防団などの地域に密着した団体との交流会を実施している。 ② 地域住民を対象とした講習会を開催若しくはその講習会の講師を派遣し、認知症への理解を深めてもらう活動を行っている。
3. 運営推進会議を活かした取り組み	(例示) ① 運営基準第85条の規定どおりに運用されている。 ② 運営推進会議で出された意見等について、実現に向けた取り組みを行っている。
4. 市町村との連携	(例示) ① 運営推進会議以外に定期的な情報交換等を行っている。 ② 市町村主催のイベント、又は、介護関係の講習会等に参画している。
6. 運営に関する利用者、家族等意見の反映	(例示) ① 家族会を定期的(年2回以上)に開催している。 ② 利用者若しくは家族の苦情、要望等を施設として受け止める仕組みがあり、その改善等に努めている。 ③ 家族向けのホーム便り等が定期的(年2回以上)に発行されている。

(注) 要件の確認については、地域密着型サービス外部評価機関の外部評価員が事実確認を行う。